



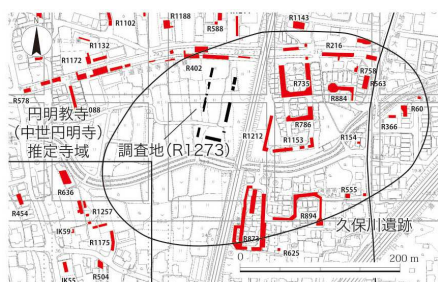
発行日 令和6年11月10日
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)
 発行責任者 吉岡 望
 連絡先 大山崎町歴史資料館内
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289
 URL <https://www.kyoto-ofg.org/>



「久保川遺跡の出土品について」

大山崎町教育委員会生涯学習課
 文化芸術係 菅生 薫

今回は、久保川遺跡で実施した長岡京右京第1273次(R1273次)調査(第1図)で奈良時代後半の地層から出土した鳥紐蓋(とりちゅうふた)についてご紹介します。



第1図 令和4年度の調査地位置図

鳥紐蓋(写真1)とは、オシドリの頭の形をした灰釉陶器で、同じく灰釉陶器製の平瓶(ひらか)の蓋として用いられました(第2図)。セットの平瓶には羽毛の線刻が施され、蓋を被せるとオシドリの全身のように見える、何とも雅な器です。平瓶は酒器として用いられたとも考えられており、オシドリが水鳥(=水酉=酒)であることとも通じます。今回の出土例は全国で23例目で、多くは生産地である愛知県で出土しています。本例とそっくりの鳥紐蓋が、猿投窯(さなげよう)跡群の黒笹4号窯(みよし市)から出土しています。おそらく同

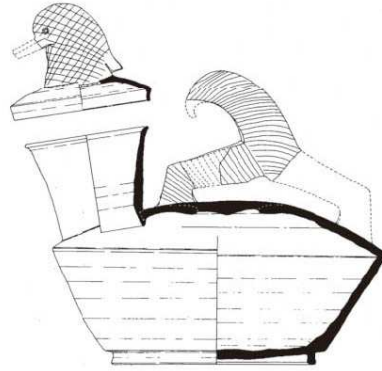
じ職人によって作られたものでしょう。供給先の遺跡としては、平城京や平安京、尾張国分寺、美濃国分寺があるほか、長野県や群馬県の住居跡などからも出土しています。

本例は、目やくちばしの周囲の微細な羽毛は細やかに、首もとの大きな羽根は曲線で伸びやかに、頭頂部付近の冠羽(かんむりばね)は細い線で流れるように表現され、羽毛が巧みに描き分けられています。これまでの出土例の中でも特に美しく、本物の鳥を見ながらでないとも描けないものです。鳥紐蓋のオリジナルに近いものでしょう。

久保川遺跡では、これまでの調査で鳥紐蓋と同じ奈良時代後半の土器が多く出土しています。中には「麻呂」、「大宅」などと墨書された土器もあり、一般的な集落遺跡とは様子が異なります。鳥紐蓋は当時の高級品である灰釉陶器製で、出土例の少なさと技巧の秀逸さから考えて特注品だと思われま。こうした状況から、権威ある人物の邸宅や公的な施設があったとも考えられます。この雅な器で杯を交わしながら、どんな会話をしていたのでしょうか。今後の調査にご期待ください。



写真1 久保川遺跡出土鳥紐蓋



第2図 鳥紐蓋使用例

(長野県金鉢場遺跡出土例より)

| 9月～10月の活動実績 | 活動予定 |
|---|---|
| <p>1. 主なガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月5日(土)～20日(日)の土・日 定点ガイド 114名 ・10月24日(木) 大山崎小学校6年生出前ガイド 83名 ・10月26日(土) 秋の天王山ウォーキング2024 71名 ・10月31日(木) 大山崎小学校6年生学習支援 83名 <p>2. 会の行事など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月26日(木) 学習会「下水道事業の概要」 25名 ・9月30日(月) あちこち学習山歩78 宇佐山城跡 9名 ・10月17日(木) 現地見学会「淀川資料館ほか」 30名 | <p>1. 主なガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月2日(土)～12月1日(日)の土・日 定点ガイド 全班 ・11月10日(日) 乙訓ろうあ協会 1班 ・11月17日(日) 円団連親睦委員会(定点ガイド) 2班 ・11月30日(土) 大山崎町企画観光係 4班 <p>2. 行事予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月18日(月) あちこち学習山歩80 山科駅～円山公園 ・11月26日(火) 日帰り研修 大徳寺 ・12月9日(月) あちこち学習山歩81 平安宮跡探訪 ・12月19日(木) 学習発表会 |

| 9-10月 ガイド実績 | | | | | | | | | | | |
|-------------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|-------|-------|------------|
| | 一般ガイド | | 主催ガイド | | 歴史資料館 | | 出前ガイド | | 定点ガイド | | 合計 |
| 9-10月 | 6件 | 99人 | 1件 | 71人 | 74件 | 125人 | 1件 | 83人 | 85件 | 114人 | 167件 492人 |
| 6年度累計 | 19件 | 298人 | 3件 | 171人 | 224件 | 443人 | 1件 | 83人 | 395件 | 1272人 | 642件 2267人 |

現地見学会 鍵屋資料館と淀川資料館

10月17日(木)、二組に分かれて阪急高槻駅より枚方公園口バス停で下車し、私達2組は先に、街道に面して菊の懸崖が並ぶ鍵屋資料館に入りました。2階の大広間にて時折り、淀川の川風を感じながら資料館の説明を聞きました。

枚方宿の歴史を伝える資料館として平成13年に開館し、「鍵屋主屋」は枚方宿を代表する建物として有形文化財に指定されています。以前は餅屋・商人宿・料理旅館を平成9年まで営んでいました。大広間、小間、帳場、台所(おくどさん)を見学しました。因みに鍵屋という屋号は家紋が鍵である為だそうです。伏見から大阪の八軒屋(はちけんや)の間を三十石舟、二十石舟、その他の舟が往来しており、枚方宿は水陸交通の重要な場所となっていました。

有名なのは河内弁で“くらわんか”と言って酒や餅、ごんぼ汁を小舟で商いをしている錦絵から当時の賑わいが浮かびます。伏見城築城の時に、淀川左岸に「文祿堤」として、街道を整備した後「京街道」と呼んでいました。

枚方宿の船番所跡、問屋場跡、本陣跡等見ながら淀川資料館に到着しました。

始めにスクリーンで淀川の歴史の説明が有り、明治18年の大洪水を機に淀川改良工事が行われ、大正6年の洪水の後も伏見から淀川の河口までの範囲を改修、補強し、昭和以降も水害対策として各所を整備されたことを知りました。また、今年には明治の改良工事から150年目に当たり、写真や資料を多く展示していました。

最後に大山崎の桂川右岸高水敷から偶然に発見された明治時代の「2連式の煉瓦造樋管」の一部が堤防に設置してあり、樋管は町内の悪水を淀川に流す為の管でした。

淀川の広さに感心しながら帰途に着きました。

(4班 山本八重子 記)



鍵屋資料館にて(左:1組(1班・2班)、右:2組(3班・4班))

～わたしのふるさと～

私は生まれも育ちも京都市です。大学生の時、地域振興に興味を持ち、小豆島を旅したことがきっかけでいろいろな地域の「ふるさとめぐり」をするのが好きになりました。

2年前、「乙訓いとをかしスタンプラリー」で初めて大山崎を知りました。最初はスタンプをためる楽しみが勝っていましたが、いつしか大山崎をもっと知りたいと思うようになりました。スタンプラリーで訪れた歴史資料館にて、ふるさとガイド募集のチラシを見て、ガイドは未知の領域でしたが、思い切って挑戦しようと思い、OFGに入会しました。

歴史の勉強をやり直し、自分の言葉で解釈し、お客様をおもてなしする極意を勉強中です。いつか大山崎の観光パンフレットを作るのが夢です。

(3班 安川秋子 記)



小豆島 世界一狭い海峡
土渕海峡



小豆島オリーブ公園

私が生まれ育った所は京都の北部、舞鶴です。舞鶴というと「海」という印象ですが、私が生まれたのは福井県との県境の山に囲まれた小さな集落です。顔を上げれば青葉山の東峰、西峰の2つ山が仰がれます。この山の中腹に建つのが、西国三十三所の第二十九番札所「松尾寺」です。

子供のころは祖父のお供で、春、秋のお彼岸にお参りしました。境内いっぱい露店、まわりに漂う美味しそうな匂い、子供ごころに胸が躍ったものでした。帰りに祖父はお札を頂き、私はかちわり飴・しょうが糖を買ってもらい下山しました。

子供の遊びといえば、裏山や近くの山に登ってめずらしい物を誰よりも早く探し、採ることでした。春は二輪草カタクリの花を、初夏はより多くの蕾をつけた山ゆり(ささゆり)を、秋には栗を拾いアケビをとる、そんな自然のなかの毎日でした。しかし、今では人家のそばまで「獣」たちが出てくるようで、子供が山を歩くなるとんでもないことのようにです。

私が京都へ来て半世紀を過ぎました。昔仰ぎ見た青葉山に変わり天王山をみています。でも時々無性に「あおばさん」が恋しくなります。

(4班 北 美千代 記)

あちこち学習山歩 78 宇佐山城跡

9月30日(月)は3班の山本隆さんのご案内で、「宇佐山城跡」へ行ってきました。宇佐山城は、信長の命を受けた森蘭丸の父「森可成(よしなり)」が元亀元年(1570)に築いた山城で、歴史的にも興味深い場所です。

可成が同年9月に討死した後、明智光秀が入城し、比叡山焼き討ちなどの際の拠点として使用されました。現在、山頂にはテレビ中継塔があり、東側には琵琶湖が望める絶好のロケーションとのことで、とても楽しみにしていました。

9月末にもかかわらず、まだ暑さが残る日中でした。近江神宮は「お宮参り」の方々に賑わっており、さらに宇佐八幡宮を経て宇佐山の山頂(標高335m)へと向かいました。整備が進んだ天王山とは異なりますが、宇佐山は地元の方々に親しまれている場所で、登山道では数組

のグループとも出会いました。道中では、当時の技術力の高さを感じさせる野面積みが見事に残っており、滑りやすい葉っぱと急な坂道に苦勞しながらも登り切った先には、素晴らしい眺望が待っていました。

山頂での風は秋の気配を感じさせ、琵琶湖を眺めながら食べるお弁当は格別でした。食後のカフェタイムも和気あいあいと楽しむことができ、山歩きの楽しさを再確認しました。

(1班 皆本芳子 記)



宇佐山城跡にて